# 災害復旧技術専門家を青森県鰺ヶ沢町に派遣

公益社団法人　全国防災協会

（公社）全国防災協会では、市町村をはじめとする被災公共土木施設の早期復旧支援に向け、平成15年11月に「災害復旧技術専門家派遣制度」を創設しました。災害復旧技術専門家は、国や都道府県の災害復旧業務に長年携わり、制度を熟知し災害復旧事業に関する高度な技術的知見を有する経験豊富な技術者（本省防災課の災害査定官経験者や都道府県の防災担当の本庁課長級及び事務所長経験者で構成）で、北海道から沖縄までの全国に、459名（令和8年６月）が登録されています。

平成26年５月には、国土交通省水管理・国土保全局防災課より「災害復旧・改良復旧事業の技術的助言などの支援（試行）について」通知が出され、TEC-FORCEが出動した大規模災害で、被災自治体から本省防災課に要請があり、防災課が必要と判断する場合、**全国防災協会が無償で技術専門家を派遣**するなど、制度を充実してきています。これまでも多くの地方公共団体等の要請に応じ、多くの災害復旧技術専門家を派遣し、迅速かつ的確な災害復旧事業の促進に寄与しています。

今回、令和８年９月１日からの大雨により鰺ヶ沢町所管の公共土木施設（河川・道路）に被害が発生し、これら被害に対し技術的支援要請があり、防災課長通知に基づき青森県鰺ヶ沢町に災害復旧技術専門家２名を派遣して、復旧工法などについて技術的助言を行いました。

## 派遣概要

### １．令和８年９月１日からの大雨による鰺ヶ沢町の状況

**【気象の状況】**　９月１日から３日にかけて、前線を伴った低気圧が日本海から北海道付近へ進み、３日は寒冷前線が青森県付近を通過した。低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流入し、青森県では大気の状態が非常に不安定となったため、２日明け方には津軽で線状降水帯が発生し、猛烈な雨が降った。また２日夜遅くから３日未明にかけても、津軽で再び猛烈な雨が降り大雨となった。その後も、上空の寒気の影響により4日まで大気の不安定な状態が続いた。この大雨により、津軽を中心に広い範囲で土砂災害や浸水害等が発生し、人的被害1名（軽傷）、住家の床上・床下浸水等の被害が多数発生した（青森県被害報第８報より）。９月１日12時から９月４日12時までの総降水量は鰺ヶ沢で326.5ミリを観測するなど、９月の月降水量の平年値を超えた地点があった。（青森地方気象台発表）

## 2．派遣された災害復旧技術専門家（敬称略）

派遣日：令和8年9月25日(金)

派遣者：佐藤　実　東北地整OB
(㈱MIS青森営業所)
笹　洋一　青森県OB
(㈱エイト日本技術開発　青森事務所)

## 3．活動報告（支援・助言内容）

◆河川災害について

災害の状況：

①、③　出水により河床が洗堀され、護岸基礎部が流出し、護岸崩落に至ったものと推定される。

②　出水により護岸背面土砂が吸出しを受けたと推定される。

④～⑥　出水による側方侵食により護岸が崩壊したと推定される。

◆河川災害全般についての助言

・被災のメカニズムを整理すること。(河床侵食・側方侵食等)
・被災水位を確認すること。(草の倒れ具合、泥の付き具合を見逃さずに)
・被災範囲が広がっているのではという観点で再度確認すること。特に起終点については既設護岸のクラックの見落としに留意されたい。
・川幅が狭いので、最深河床から1.0mの根入れとすると､仮締切等から施工が困難となることから、根固めブロックの設置も検討したほうが良い。
・護岸の亀裂箇所にスプレーをした方が（査定時）わかりやすい。
・官民境界を確認しておくこと。(災害復旧事業でできるのは官地内のみ)
・仮設計画をしっかりたてること。(重機の進入路、敷鉄板の有無など)
・災害査定では、100m以内の箇所は1箇所工事とする。
・被災状況の詳細把握は流水部からの調査も実施していただきたい。

### 現地活動災害箇所一覧

災害名：令和8年9月1日からの大雨

| | 工種 | 河川名・路線名等 | 地　先　名 | 災　害　状　況 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 河川 | 2級赤石川水系小津軽沢川 | 鰺ヶ沢町大字舘前町　地内 | 護岸基礎流出 |
| ② | 河川 | 2級赤石川水系小津軽沢川 | 鰺ヶ沢町大字舘前町　地内 | 護岸背面の吸出し |
| ③ | 河川 | 2級赤石川水系小津軽沢川 | 鰺ヶ沢町大字舘前町　地内 | 護岸崩落 |
| ④ | 河川 | 2級赤石川水系小津軽沢川 | 鰺ヶ沢町大字舘前町　地内 | 護岸崩落 |
| ⑤ | 河川 | 2級赤石川水系小津軽沢川 | 鰺ヶ沢町大字舘前町　地内 | 護岸崩落 |
| ⑥ | 河川 | 2級赤石川水系小津軽沢川 | 鰺ヶ沢町大字舘前町　地内 | 護岸崩落 |
| ⑦ | 道路 | 町道　中村長平線 | 鰺ヶ沢町大字中村町　地内 | 法面崩落 |



役場で平田町長に挨拶



現場状況説明



⑥被災状況



③被災状況



現地確認状況



打合せ助言状況



打合せ助言状況



取材状況

◆道路災害について

災害の状況：

多量の雨水が沢筋となっている法面の表面を流れながら地中に浸透、不透水層に帯水して法面崩落が発生したと推定される。

◆道路災害についての助言

・被災原因を特定することが大事。

・法面からの湧水がないか確認し、湧水があればその処理をしっかり対応する必要がある。

・既設構造物（多段積みカゴマット工）建設当時の設計図書等から、建設時の排水処理や課題を紐解く事で復旧方法の参考になると思われる。

・道路切土・盛土のり面復旧工法は災害手帳ののり面保護工選定フロー図を参考とするとよい。

・崩壊土に覆われた部分の被災調査が不可能・困難な場合は、復旧延長に含めず申請を行い、不可視による未申請であることを明確にする。



被災状況の説明を受ける



被災状況（道路全面通行止め）




被災状況の確認




助言状況

4．災害復旧技術専門家派遣フロー

## 災害復旧・改良復旧事業の技術的助言などの自治体支援

国土交通省

○被災自治体のマンパワー不足、技術力不足により、適切な災害復旧事業の実施に際し、被災自治体の大きな負担となっている。

○災害発生時に被災自治体が災害復旧や改良復旧の計画立案するためのマンパワーや技術力の不足を補うため、**平成26年より災害復旧技術専門家派遣制度を試行的に運用**する。

○本制度は、TEC-FORCEが出動した大規模災害で、被災自治体から本省防災課に要請があり、防災課が必要と判断する場合、**防災協会より無償で専門家を派遣する制度。**


東日本被災状況（宮城県岩沼市）


東日本被災状況（千葉県成田市）


東日本被災状況（千葉県浦安市）


台風26号による土砂災害（伊豆大島）

被災が甚大化・多様化している中、多くの自治体で最適な復旧工法検討をする人員・技術力が不足している

**＜手続きのフロー図＞**

| 都道府県 防災担当課（管内市町村） | | 本省防災課（復旧事業ライン） | | 全国防災協会（専門家リスト） |
|---|---|---|---|---|
| ○本省防災課への支援要請<br>※市町村は都道府県を通じて | ①要請 → | ○都道府県からの要請の受理<br>○派遣可否、防災協会との調整 | ②依頼 → | ○派遣する専門家との調整、専門家の決定 |
| ○専門家が現地にて復旧方針等の助言 | ← ④通知 | ○被災自治体へ通知 | ← ③専門家決定 | ○防災課へ連絡 |

協会だより

# 令和 8 年度災害復旧促進全国大会の概要をお知らせします。

1．日　時：令和 8 年11月9日（月）
13時30分～15時00分
（受付開始12時30分）

2．場　所：東京都千代田区平河町 2－7－4
砂防会館別館
シェーンバッハ・サボー 1 階　利根

（注）諸事情により開催できない場合は、協会ホームページ等でお知らせします。